

博士課程前期

1 募集専修科目と担当者及び授業内容の概要

主		要			科		目	
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授業内容			
経済史	経済史Ⅰ（東洋）	経済史Ⅰ（東洋）講義A	2	准教授 博士（経済学） 瀬戸林政孝	<p>本講義では、近年、研究上、目覚ましい進展を遂げている近代アジアの経済史について最新の実証研究の成果をもとに講述し、18世紀から20世紀前半における東アジア・東南アジアを中心とした社会経済史の把握を目的とする。</p> <p>演習では、参加者の興味・関心のある分野を重視しながら近代アジア史関連のテキストを輪読し、解説とディスカッションを行う。</p> <p>講義、演習ともに経済史に関する基本的事実関係について習得していることが望ましいが、適宜、解説を行うので他分野の参加者も歓迎する。この点について心もとない参加者は学部3・4年生対象の「東洋経済史」の受講をお勧めする。</p>			
		経済史Ⅰ（東洋）講義B	2					
		経済史Ⅰ（東洋）演習	8					
	経済史Ⅱ（西洋）	経済史Ⅱ（西洋）講義A	2	講師 博士（経済学） 西村道也	<p>経済史は、経済問題を歴史的に考える分野です。人類は、生存するために、生産や分配に代表される経済問題に取り組んできました。経済問題を解決する方法としては、伝統・命令・市場という三つの類型が歴史上存在するといわれています。これら三つの類型がどのように現れるのかは、時間と空間によって異なります。</p> <p>我々が生きている現代は、市場が優勢な世界だと考えられています。その源流は、世界に先駆けて産業革命を経て工業化した西洋、特に西ヨーロッパであると考えられています。西洋経済史について思索する時間を持つことは、現代経済を考える上で意義のあることだといえるでしょう。</p> <p>講義では、西洋経済史についての導入的なテキストを講読します。その際には、毎回担当を決めて、テキストの内容を要約した報告をしてもらい、教員が解説を行います。演習では、参加者の関心に配慮しながら、西洋経済史の担当者として、修士論文執筆の指導を行います。</p>			
		経済史Ⅱ（西洋）講義B	2					
		経済史Ⅱ（西洋）演習	8					
	社会思想史	社会思想史講義A	2	准教授 博士（経済学） 武井敬亮	<p>社会思想史の授業は、近代社会を支える重要な概念・考え方がどのようにして生まれてきたのかを歴史的な文脈の中で把握することによって、近代社会の成立プロセスを理解することを目的としています。近代社会成立のメルクマールとして、政治的自由、宗教的自由、経済的自由の確立が挙げられます。社会思想史講義Aでは、17世紀のイギリスを中心に、宗教改革、内乱、革命を経て、政治的自由と宗教的自由がどのようにして確立されたのかを概観します。社会思想史講義Bでは、経済的繁栄をもたらす新たな問題に直面した18世紀のイギリスを中心に、政治的自由と経済的自由がどのようにして確立されたのかを概観します。</p> <p>演習では、より専門的なトレーニングを行います。具体的には、17-18世紀イギリスの思想家の著作を中心に一次文献の精読を行い、資料分析の方法や思想史研究の進め方について指導を行います。併せて、資料調査やデータベースの活用方法についても学んでいきます。</p>			
		社会思想史講義B	2					
		社会思想史演習	8					
理論経済学	ミクロ経済学	ミクロ経済学講義A	2	准教授 赤羽根靖雅	<p>ミクロ経済学の応用モデルを開発する力を培うことを目指す。そのために、消費者、企業などの経済主体の目的関数や制約式の性質について学ぶ。また、情報の経済学のモデルを理解することに努める。目的関数や制約式を学ぶのは、理論モデルの構造を理解し、結論を正しく把握するために必要だからである。また、応用ミクロ経済学を分析していく上で情報の問題は重要だから、情報の経済学を理解は応用モデルを開発する基礎として必要である。</p> <p>上記の目的を達成するために、具体的な題材として企業金融や企業組織を選ぶ。数理的モデルとしては比較的単純だから、情報が経済活動にどのような影響を与えるのかを理解し、制約条件と結論の因果関係について学ぶのに適しているからである。</p>			
		ミクロ経済学講義B	2					
		ミクロ経済学演習	8					
国際貿易理論	国際貿易理論	国際貿易理論講義A	2	教授 Ph. D. 井手豊也	<p>この講義では、まず、貿易理論の基礎となるヘクシャー・オリーン・モデルを、簡単な数式を用いて解析してゆく。</p> <p>これは、ミクロ理論における一般均衡の分析手法を貿易理論に取り入れたものである。その内容は、図と簡単な数式を用いながら、ヘクシャー・オリーン・モデルにおける主たる定理である比較優位の決定、所得の再配分（ストルパー・サミュエルソンの定理）、成長問題（リプシンスキーの定理）、貿易政策（関税、数量制限等）の効果を分析してゆく。次に、上記のモデルに、規模の経済性を取り入れたモデルを、同じように解析してゆく。ここでは、調整メカニズムが必要になるため、これについても論じてゆく予定である。</p>			
		国際貿易理論講義B	2					
		国際貿易理論演習	8					
理論経済学	理論経済学	理論経済学講義A	2	教授 Ph. D. 渡邊淳一	<p>この演習では、まず、貿易理論の分析に必要な、ミクロ理論の復習から入り、これらの分析力を、Jones氏の論文（英文）を読み理解する事によって、養ってもらいたい。論文の数は、進む速度で調整して行く。</p> <p>専門の論文を読めるだけの英語力と数学および経済学の素養を付けるため、下記のテキスト、あるいはこれらと同等のものを用いて、ミクロ経済学やゲーム理論の基礎を講義します。</p> <p>[1]では Individual and Social Choice, The Price Mechanism, Noncooperative Game Theory, Topics of Information Economics など、[2]では The core, Stable Sets, the Bargaining Set, and the Sharpley Valueなどを考えています。</p> <p>[1] K reps, David M. 1990. A Course in Microeconomic Theory. Princeton University Press. [2] Osborne, Martin J., and Ariel Rubinstein 1994. A Course in Game Theory. The MIT Press.</p>			
		理論経済学講義B	2					
		理論経済学演習	8					

主		要			科		目	
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授業内容			
ゲーム理論	ゲーム理論	ゲーム理論講義A	2	教授 博士(経済学) 西原 宏	この講義では、非協力ゲーム理論の基本概念とその応用について解説します。各概念の解説の後、問題演習によって理解を明確にします。さらに応用例を紹介して、ゲーム的状况をモデル化し分析する方法について解説します。 この演習では、非協力ゲーム理論を用いて経済問題を分析し修士論文を作成します。前半では、文献を精読し、セミナー形式で発表することを行います。これを通して、問題の立て方、モデル化の仕方、分析方法を習得し、さらに研究テーマを決定します。後半では、モデルの分析と分析結果の意味づけ、論文作成を行います。			
		ゲーム理論講義B	2					
		ゲーム理論演習	8					
協力ゲーム理論	協力ゲーム理論	協力ゲーム理論講義A	2	教授 博士(経済学) 近郷 匠	この講義・演習では協力ゲーム理論の基礎を学習します。協力ゲーム理論とは、複数の人々の間での提携行動を分析するための数学理論です。政党・派閥・会派の結成、企業間合併や業務提携、新入社員の部署への配属、あるいはサークルへの入会など、我々の身の回りで人々(あるいは会社など)がグループを形成する例を挙げればきりがありません。こういったグループの形成行動を分析し、例えば議会における各政党の影響力を評価したり、共同プロジェクトでの公平な利潤分配ルールを決定したり、あるいは自治体が地域の子供それぞれの希望に基づいて、地域のどの公立学校に入学させるか決める制度を設計したりする際に、協力ゲーム理論は有益な示唆を与えてくれます。これらの中にも特に、公立学校の入学先決定にも応用される「2部マッチング理論」を中心に、その基礎を理解することを目指します。			
		協力ゲーム理論講義B	2					
		協力ゲーム理論特講演	8					
産業組織論	産業組織論	産業組織論講義A	2	教授 博士(経済学) 阿比留正弘	この講義では、一年目には、自分自身の人生設計としてのビジネスプランを作成するための準備を行うことを目的としている。学生は、興味ある分野の企業を選び、その企業でのインターンシップを経験し、その企業を取材によってビジネスプランを構築する作業をしてもらう。そこから企業の強み(魅力)を理解することである。具体的には、製品(サービス)が如何に競合他社と差別化されているか、企業風土が如何に魅力的であるか、社員教育がどれだけ充実しているかなどについて、現場で経営者、社員、顧客から聞き取り調査やマーケティング調査を行うことになる。このような研究の上に立ち、2年目は修士論文を作成することになる。ここでは、よりマクロ的な経済状況を分析し、興味を持った業界の将来性を調べたり、国の政策、海外との貿易の可能性に言及しながら、学生が興味のある研究テーマについて研究を深めてもらうことになる。			
		産業組織論講義B	2					
		産業組織論演習	8					
経済数学	経済数学	経済数学講義A	2	教授 Ph. D. 藤本 浩明	経済数学は、経済学の一分野ではない。慎重に単純化したモデルを用いて、複雑な経済現象の因果関係を分析し、その中に潜む法則を見出すための科学的方法のひとつである。ここで、科学的とは、広辞苑によると、体系的であり、経験的に実証可能な知識のことを言う。もちろん、経済モデルが数学的である必要はないが、数学的であれば、モデルは変数とパラメータからなる方程式で表現されるため、適切な計算をするだけで、科学的な結論を得ることができる。そこで、本講義ならびに演習では、例えば、チャン著「現代経済学の数学基礎(第4版)」CAP社の教科書などを通じて、科学的方法を学ぶとともに、最適な税制ならびに所得格差の不等尺度およびリスク管理に応用することを考える。			
		経済数学講義B	2					
		経済数学演習	8					
社会的選択理論	社会的選択理論	社会的選択理論講義A	2	教授 博士(経済学) 佐藤 伸	本講義・演習では、社会的選択理論の基礎を学習します。複数の意見、好み、判断を何らかの方法で集計することを社会的選択と呼び、望ましい集計方法の設計可能性を探る理論を社会的選択理論と呼びます。社会的選択理論の応用例は選挙や経済政策の決定、あるいは財の分配といったものから家族で夏休みにどこに行くかといったことまで多岐にわたります。そう考えると社会的選択の結果はわれわれの生活に大きくかかわっていることがわかります。したがって、「正しい」方法にしたがって社会的な選択を行うことが重要となりますが、「正しい」方法の満たすべき性質はどのようなものか、そしてそのような性質を満足するような社会的選択の方法を設計することが可能であるのかについて現在に至るまで膨大な研究がなされています。それらのうちで特に重要なものについて理解することを目指します。			
		社会的選択理論講義B	2					
		社会的選択理論演習	8					
経済学史	経済学史	経済学史講義A	2	教授 博士(経済学) 山崎好裕	経済学は、現代まで250年に渡って発展してきました。この講義ではその歴史を英語のテキストを通じて学んでいきます。具体的には、前期Aで、重商主義、古典派経済学、マルクス経済学、限界学派、新古典派、後期Bで、ケインズ学派、マネタリズム、新古典派マクロ経済学、実物的景気循環アプローチ、ニュー・ケインジアンという順番です。数学についても基礎から説明します。また、前期A・後期Bとも1回ずつのテストを行って、知識が定着しているか確かめます。 この演習では、前期に計量経済ソフトEViewsを使って、計量分析の手法を一通り学んでいきます。具体的には、基本的な推計法、より進んだ推計手法、最小二乗法以外の推計法、機械的予測法、単位根と共和分の問題、季節調整とフィルターの問題などを扱います。後期は、論文を読んで皆で議論しながら、各自の研究を進めていきます。1年生は自分の研究テーマを確定していくことになり、2年生は実際に修士論文を完成させていきます。			
		経済学史講義B	2					
		経済学史演習	8					

主		要		科		目	
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授業内容		
理論 経済学	経済動学	経済動学講義A	2	准教授 博士(経済学) 西田圭吾	<p>経済成長理論を学び、学術論文を読むための分析手法を身に付けることが本講義の目的です。講義の前半では、基本的な新古典派成長モデルや内生成長モデルについて取り扱います。また、それらを学習するうえで必要となる微分・差分方程式や動学的最適化についても扱います。講義の後半では、受講生の関心に合わせて、より発展的な内容について議論します。</p> <p>修士論文の作成を念頭に演習を行います。論文のテーマを選定するために、最近出版された学術論文やNBERなどのワーキングペーパーを読んだり、受講生の関心のある研究領域について自身で文献のサーベイをしてみたりします。</p>		
		経済動学講義B	2				
		経済動学演習	8				
応用 経済学 ・ 経済 政策学	経済政策理論 〔当該年度は募集しない〕	経済政策理論講義A	2	教授 今泉博国	<p>環境政策に関連する内容を2つの部分に分けて講義する。まず、前半部分では環境政策の目標・手段・主体に関する議論の基礎となる厚生経済学の内容(余剰概念、市場機構とパレート効率性、外部性、社会厚生関数、補償原理)を解説したい。</p> <p>後半部分では現実に生起している環境問題に対し、政府や自治体がいかなる対策を講じているのか、また講ずるべきであるかを議論していきたい。</p> <p>加えて地域再生と環境保全に関わる最近の議論をも紹介したい。</p> <p>講義内容に即した基本的な文献(厚生経済学・環境経済学)を輪読していくとともに演習の受講生自らが関心を有する政策課題についての研究を進めてもらう。とくにその課題に携わる様々な政策主体の研究に力点をおいてもらう予定である。</p>		
		経済政策理論講義B	2				
		経済政策理論演習	8				
	公共経済学	公共経済学講義A	2	教授 博士(国際公共政策) 玉田桂子	<p>公共経済学特講講義では、学部レベルのミクロ経済学(数学も含む)を踏まえた上で理論的、実証的な側面から課税が行われたときにどのようなことが起こるかを解説する。具体的には、政府はどのように税制をデザインすべきか、税金はどのように経済行動に影響を及ぼすのか、どのような人々が税制改革により得をし、損をするのかを明らかにする。講義を通じて政策が行われるときの便益とコストのトレードオフを考えられる力を養う。</p> <p>演習では、Journal of Public Economics, Journal of Human Resources, Journal of Labor Economics などの英文雑誌から公共経済、労働経済、社会保障に関する実証論文を輪読する。理論モデルや計量経済学的な細かい手法には捉われず、論文のアウトラインが理解できるように論文の読み方を身につける。合わせて、先端の研究ではどのようなことに関心がもたれているのかについても学習していく。</p>		
		公共経済学講義B	2				
		公共経済学演習	8				
	所得再分配論	所得再分配論講義A	2	准教授 博士(経済学) 中村由依	<p>日本の所得格差について、その測定や評価の方法、原因となりうる教育の機能や個人の健康状態、結果として直面する貧困問題を、理論・実証研究の両方から学び多角的に日本の現状を把握しながら、将来目指すべき所得再分配の方法を議論していきます。</p> <p>上記のテーマを扱っている文献や論文を読むためには、ミクロ経済学や英語の知識が欠かせませんので、既習の学生の受講を希望します。また、受講者の希望によって輪読する文献リストを多少変更することがあります。</p>		
		所得再分配論講義B	2				
		所得再分配論演習	8				
証券経済論	証券経済論講義A	2	教授 有岡律子	<p>金融には、マクロ金融政策や金融システムの分析、企業の財務・会計、金融工学などといった幅広い内容が含まれる。本講義では、このうち、インベスト・ファイナンス(資産運用)、コーポレート・ファイナンス(資金調達/事業投資/キャッシュマネジメント)について、基礎的事項や理論、実務的なもの等について学んでいく。</p> <p>講義で学んだことをもとに、関心のある金融テーマについて、論文をまとめることを目標とする。</p>			
	証券経済論講義B	2					
	証券経済論演習	8					

主 要 科 目		主 要 科 目		主 要 科 目		
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授 業 内 容	
応 用 経 済 学 ・ 経 済 政 策 学	米 中 日 経 済 分 析	米 中 日 経 済 分 析 講 義 A	2	教 授 博 士 (経 済 学) 万 軍 民	<p>概要：①米中日の経済の発展過程、現状、問題点、例えば、資産バブルの生成と崩壊、金融と経済危機、長期不況、就職難、財政赤字と政府破綻危険性などをそれぞれ理解し、この三か国経済への関心をより一層深めることを目標とする。②米中日の3カ国では、特に米日において確立された金融システムが実体経済と乖離したとき、経済危機が生じる。日本の「失われた20年」および米国経済危機の生成メカニズムの本質を解き明かし、現代及び未来の世界、特に中国への教訓と対策を導く。③現在の米中間の経済問題、日中間の経済問題、そして日米間の経済問題を認識し、これらの問題の要因と解決方法などを探る。④今後の米中日の発展の行方を展望する。</p> <p>計画：【I】日本：高度成長期と政府規制下における政策誘導型金融、資金配分メカニズムへの政府関与、メインバンクと系列融資・設備投資、金融の自由化とバブルの発生、バブル期とバブル崩壊後における銀行・企業・家計・政府行動、不良債権問題、財政破綻の危険性、「失われた20年」と長期低迷の原因、経済回復への途と今後の課題。【II】米国：資産バブルの生成と崩壊、米国発の世界金融危機と世界経済危機、経常収支赤字と財政赤字、基軸通貨問題。【III】中国：資産バブルの危険性、資産バブルが起こってしまった場合の対処法である硬着陸と軟着陸、金融と経済危機を未然に防止する制度設計。【IV】米中日経済：バブルや財政赤字のような共通問題の相違点と未然に防ぐ対策の制度設計、それぞれ特有の問題と対策。【V】より豊かで幸せな現代と未来の世界へ、「管子」と「社会市場経済 (Socialized Marketism)」。</p>	
		米 中 日 経 済 分 析 講 義 B	2			
		米 中 日 経 済 分 析 演 習	8			
	経 済 発 展 論	経 済 発 展 論	経 済 発 展 論 講 義 A	2	教 授 博 士 (経 済 学) 中 島 章 子	<p>大学院の修士を保有している学生にとっては知っている、あるいは出来るのが常識と考えられるマクロ経済学の比較静学までとその理解に必要な数学を教えます。それから、総投下労働量という概念を説明し、その概念(価値とも解釈されます)を用いて、経済発展の過程を説明します。</p> <p>高所得国と中間所得国が増え、低所得国が減少しているというのが世界の現状です。これには多くの国の経済発展への努力が実現したと考えられます。ただ、所得分配、生産性の停滞、将来の高齢化、保険医療経済の遅れ、金融部門の弱さなど、問題が山積しているのも事実です。経済発展の指標、発展の現状、成長会計、ハロッドドーマー成長論、新古典派成長論、二重経済論、全労働生産性などについて講義します。</p> <p>演習では、産業連関表分析について実際にデータに当たって計算する実証の練習をします。部門統合、プログラムの書き方、などです。ここで、発展途上国の雇用誘発係数と生産性の要因分析について講義ならびに実証したいと思っています。特講講義では講義をして、演習はデータ分析をします。評価は、データの裏づけのあるレポート提出に基づきたいと思います。</p>
			経 済 発 展 論 講 義 B	2		
			経 済 発 展 論 演 習	8		
	金 融 論 (当 該 年 度 は 募 集 し ない)	金 融 論	金 融 論 講 義 A	2	教 授 芹 澤 数 雄	<p>ジンメルの「貨幣の哲学」を輪読するか、エコマネー、エコバンクについての文献を読む予定である。</p>
			金 融 論 講 義 B	2		
			金 融 論 演 習	8		
	財 政 学	財 政 学	財 政 学 講 義 A	2	准 教 授 博 士 (経 済 学) 山 下 耕 治	<p>本講義・演習では、日本経済の諸問題について現状を把握し、その諸問題について、政府が果たすべき役割を議論・研究する。本講義・演習の目標は、政府行動に関して経済学的に正しい理解と評価ができるようになることにある。</p> <p>日本経済の成熟化・少子高齢化・雇用形態の多様化・グローバル経済化に伴って、われわれの社会は大きな転換期に直面している。そこで、官と民の役割分担について再検討するとともに、財政が市場に及ぼす効果を議論することの重要性が一段と高まっている。</p> <p>講義では、財政学の標準的な内容について、理論・制度・実態のバランスに留意しつつ、財政の在り方とその市場への効果について検討する。具体的には、ミクロ経済学とマクロ経済学の分析方法を用いることで、財政運営、国と地方の財政関係、税制改革などの在り方について議論する。演習では、上記の研究論文を輪読するとともに、政府行動に関して、計量経済学の分析手法を用いることで仮説検証を行う。</p>
			財 政 学 講 義 B	2		
			財 政 学 演 習	8		
租 税 論	租 税 論	租 税 論 講 義 A	2	准 教 授 宮 本 昌 典	<p>租税理論(前半部分)と租税制度(後半部分)について講義する。取り扱うテーマは以下のようものである。</p> <p>前半部分：課税の基本概念、租税の分類、租税原則、課税の公平、租税の転嫁・帰着、課税の超過負担、課税と経済的誘因、最適課税論。</p> <p>後半部分：シャープ勧告、個人所得課税、法人所得課税、消費課税、資産課税、環境保全課税、税制改革。</p> <p>演習では、修士論文の作成指導に重点を置くとともに、租税論に関する英語文献を輪読する。文献としては下記のものを予定しているが、受講者と相談して決めたいと思う。</p> <p>David N. Hyman, <i>Public Finance</i>, 11 th ed., South-Western Cengage Learning, 2014.</p>	
		租 税 論 講 義 B	2			
		租 税 論 演 習	8			

主		要		科		目		
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授業内容			
応用経済学・経済政策学	労働経済学	労働経済学講義A	2	講師 博士(経済学) 中村亮介	この講義では労働経済学の専門的知識の習得を目指します。労働経済学が扱うトピックは個人の労働供給、企業の労働需要、失業、教育など多岐にわたります。そして、どのトピックにおいても、政策が実行される(た)ことによって労働者や企業の行動がどう変化する(した)か、政策の意図した効果が実現される(た)のか、労働経済学の理論を理解した上で予測し、計測できるようになることが重要です。そこで、本講義では、まず労働者の労働供給行動、企業の労働需要行動、教育投資行動が持つ経済学的意味を理論的に学んでいきます。次に様々な政策が実行された時の効果を計測するための政策評価の手法を学んでいきます。			
		労働経済学講義B	2					
		労働経済学演習	8					この演習では講義で学んだことを前提に、受講者自身の研究報告や興味関心に応じた労働経済学関連の論文を輪読していきます。
	確率過程ファイナンス	確率過程ファイナンス講義A	2	教授 Ph.D. 小島直樹	Since contribution by Black, Scholes and Merton, finance via stochastic process has now come to be common knowledge in economics. This course aims to introduce students to finance by way of stochastic process. Students are warned that the learning curve is quite steep.			
		確率過程ファイナンス講義B	2					
		確率過程ファイナンス演習	8					
	公共政策論	公共政策論講義A	2	講師 森田薫夫	この授業では公共政策の例として知られる課税政策に注目します。特に、所得格差が存在するときに、どのような課税政策が経済効率性を損なわずに公平性を保証するか、仮に効率性を損なうならば、それを最小化する税制はどう特徴づけられるか、という問いに関する経済学の知見を扱います。また応用的論点として、物品税と所得税の比較、資本所得税、及び地方分権制度に言及します。授業では、経済学の知見の概要だけでなく、その導出過程(数理モデルの分析)にも注目します。そのため、必要な数学についても確認をしながら進行します。			
		公共政策論講義B	2					
		公共政策論演習	8					企業や家計といった民間部門の経済主体が経済活動(生産・販売活動や購買活動)をするとき、その結果が社会的観点からみて望ましくないならば、何らかの解決策が必要とされます。その解決策の一つに政府などの公共部門による政策、換言すると公共政策があります。演習では、上記の公共政策に関連し、かつ受講者の興味関心に近い学術論文または書籍を輪読形式で読解していきます。
	計量経済学・統計学	計量経済学	計量経済学講義A	2	准教授 鍵原理人	本講義の目的は、統計学及び計量経済学の理論的基礎を修得することである。計量経済学は、経済社会に見られる何らかの法則性を観測(データ)に基づいて明らかにする方法を研究する学問であり、その基礎を統計学においている。理論的背景についての理解を深めることで、計量経済学の支柱である統計的思考を自分のものにして頂きたい。受講者の関心に応じて、統計理論の修得に必要な数学についても学ぶことにする。前期においては、統計学と計量経済学の基礎理論を学習し、後期においては、前期での学修状況を踏まえて適宜課題を選択することにする。		
			計量経済学講義B	2				
			計量経済学演習	8				
応用計量経済学		応用計量経済学講義A	2	教授 Ph.D. 高瀬光夫	本特講は、主としてミクロ経済学及びマクロ経済学的な理論モデルを推定するために必要な計量経済学的分析手法の基礎を習得することを目的としています。経済学の中でもさまざまな分野の応用事例を広く取り上げることで、計量経済学的分析手法の応用力を養っていきます。受講生の関心によっては、マクロ経済成長モデルのシミュレーション分析など計量経済学以外の分野の数量的分析や解析的分析についても議論を拡張する予定です。			
		応用計量経済学講義B	2					
		応用計量経済学演習	8					本演習は、経済学の中のさまざまな応用分野のうちで受講生各自の関心に基づいて、計量経済学的分析が応用可能な研究テーマを選び、論文を作成する能力を修得することを目的とします。さまざまな経済的問題や社会的問題について、実証分析可能な経済学的な理論モデルを構築し、計量経済的な手法を用いて理論モデルを推定し、理論モデルの短期と長期の性質を検証し、そこから政策的含意や将来の見通しについて考察していきます。

主		要		科		目	
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授業内容		
計 量 経 済 学 ・ 統 計 学	経済時系列分析 〔当該年度は 春季のみ募集する〕	経済時系列分析講義A	2	教授 D. Phil. 栗田 高光	<p>経済時系列分析は、現在、マクロ経済や金融に関する実証研究において極めて重要な役割を果たしています。この講義では、経済時系列分析のための数学的手法について詳しく解説していきます。講義で取り上げる内容として、主に以下のものが挙げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最尤法に基づく推定及び検定 ・単変量自己回帰モデル ・確率トレンドと単位根 ・多変量自己回帰モデル ・共分解分析 <p>なお、この講義では計量経済学および線形代数の予備知識を必要としますので、履修にあたっては注意して下さい。</p>		
		経済時系列分析講義B	2				
		経済時系列分析演習	8				
	統計学・因果推論	統計学・因果推論講義A	2	准教授 Ph. D. 原田 勝孝	<p>規制や政策、法律、制度が政治や経済、社会に与える影響をデータから検証するために必要な計量分析およびその応用としての因果推論の方法を統計学の基礎から学びます。統計学の基礎から学ぶのは、大学院レベルの授業では、ただ統計ソフトをクリックして分析するというのではなく、自らが実行する手法や細かいオプションについてのどのような過程で計算されるのか理解している必要があるためです。また、本講義ではRを用いて適宜、実習を行います。基本操作について扱う時間は無いため、受講者は予め「http://tryr.codeschool.com/」等でRの基本操作について習熟していることを履修の前提とします。</p>		
		統計学・因果推論講義B	2				
		統計学・因果推論演習	8				
	統計計量解析	統計計量解析講義A	2	講師 博士(経済学) 江口 昌伍	<p>有用な分析ツールを習得することは、研究に対する視野を広げ、分析のバリエーションを増やすことに繋がる。本講義では、統計的な分析手法に加え、オペレーションズ・リサーチの手法を扱い、理論の解説とパソコンによる演習を行うことで、実際の分析に利用できるレベルでの手法の理解・習得を目指します。具体的に扱う手法としては、回帰分析、確率的フロンティア分析(SFA)、モンテカルロ法、データ包絡分析法(DEA)などを予定しています。また、基礎的な数学的な知識に関しては、適宜受講者の理解度を確認しながらレクチャーを行う予定です。</p>		
		統計計量解析講義B	2				
		統計計量解析演習	8				
	オペレーションズ・リサーチ 〔当該年度は 募集しない〕	オペレーションズ・リサーチ講義A	2	教授 博士(工学) 米田 清	<p>実用に耐える数理モデルを限られた時間内に立てる技術を主眼とする。方法は、目的を鮮明に限定し、それに即してモデルを徹底的に単純化することである。題材は受講生の必要性を勘案して決める。 道具としての計算機言語のマスターにも力を入れたい。過去は以下のような題材を取り上げた。待ち行列、統計の実践的基礎、ブートストラップ法、線形逆問題、ラグランジュ緩和法、R言語。</p>		
		オペレーションズ・リサーチ講義B	2				
		オペレーションズ・リサーチ演習	8				
行 動 経 済 学 ・ 地 域 科 学	社会経済学	社会経済学講義A	2	教授 姜 文源	<p>この授業において、経済学はその研究対象ではなく、研究の方法論として定義される。人々の最適化に基づく選択行為は、すべて経済学の研究対象として考える。 価格、市場、取引、貨幣などの言葉の意味する本質を考えれば、これらの言葉がより幅広く定義でき、経済学的研究対象が人間のすべての選択行為に及ぶことがわかる。 特に、この授業では以下の項目について経済学的分析を行う。:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.差別と移民 2.犯罪、罰、権利 3.家族 4.政府と政治 5.健康、宗教、大衆的行動 <p><テキスト> Tommasi and lerulli "The New Economics of Human Behavior" Cambridge U. P. 1995.</p>		
		社会経済学講義B	2				
		社会経済学演習	8				

主 要 科 目					
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授 業 内 容
行 動 経 済 学 ・ 地 域 科 学	アジア経済文化 相 関 論 〔 当該年度は 春季のみ募集する 〕	アジア経済文化関連論 講 義 A	2	教 授 博 士 (学 術) 辰 己 佳 寿 子	本講義では、「経済」を、カール・ポランニー (Karl Polanyi) のいう、 経済的な制度と非経済的な制度に埋め込まれ編みこまれていく「人間の 経済」という広義の意味で捉え、日本を含むアジアの農村社会の社会経 済的現象をどのように分析していくことが可能であるかを追求する。な かでも経済的要素と文化的要素に焦点をあて、さまざまな重層的な社会 (個人、家族・親族、組織、国家、国際社会等)の相関を考察していく。 まず、経済人類学、社会経済学、社会的行為論や社会システム論を理解 し、それらの成果と課題を明確にする。その後、経済文化関連論という 新しいアプローチを用いて、アジアの農村の事例分析を行う予定であ る。
		アジア経済文化関連論 講 義 B	2		
		アジア経済文化関連論 演 習	8		
	社 会 工 学 〔 当該年度は 募集しない 〕	社会工学講義A	2	教 授 博 士 (工 学) 齋 藤 参 郎	消費者回遊行動分析に関連する話題の中から受講生の関心にしたがっ てトピックスを選択し、ゼミ形式で、教科書や論文の輪読と討論を行い ます。本年度は、回遊途上の消費者のリアルタイムの意思決定をあつか うリアルタイム経済学を目指して、ビッグデータの分析やO2O (OnlineToOffline) などでも重要になる、動的計画法、凸解析、凸計画 を学びます。 以下の教科書から、章や例題を選んで、講義を進めます。 (1) Stokey, Nancy L. and Lucas, Robert E. (1989) <i>Recursive methods in economic dynamics</i> , Harvard University Press, Chap.1- Chap.5, Chap.7-Chap.10 (2) Boyd, Stephen P. and Vandenberghe, Lieven (2004) <i>Convex optimization</i> , Cambridge University Press, Chap.1-Chap.5 (3) Jehle, Geoffrey Alexander and Reny, Philip J. (2011) <i>Advanced microeconomic theory</i> 3rd ed, Financial Times/Prentice Hall, Mathematical Appendices Chap.A1-Chap.A2
		社会工学講義B	2		
		社会工学演習	8		
	都 市 情 報 論	都市情報論講義A	2	教 授 博 士 (工 学) 五 十 嵐 寧 史	消費者の購買行動では財を認知する段階の情報が重要である。近年、 個人の嗜好に合致した財の情報を提供する「リコメンデーションサー ビス」が実用化しつつある。莫大な情報の中から個人にとって重要な情報 に絞ることは、歩行中にリアルタイムに地理的情報を提供する歩行者ナ ビゲーションや、ネットショッピングにとって極めて重要なサービスと なる。手法としてはキーワードによる検索、過去の購買履歴などから関 心を持ちうる商品を推定する協調フィルタリング、行動ターゲッティ ング広告などがあるが、いずれも電子化されたデータの存在を前提とし る点が制約である。この制約は特に商品点数が多いコンテンツ(書籍、ア ニメ、映画、音楽など)には強く効く。またコンテンツを発見する手が かりがキーワード・言語で表現しにくい場合は、既存データから検索す る手法は実用的でなくなってくる。 これに対し、SNS (Social Network Service) が注目されている。社会 的ネットワークをインターネット上で構築する仕組みであるが、参加者 のつながり方を使ってのリコメンデーションサービスや、参加者のもつ 知識を引き出す機能も期待でき、個人の嗜好にあった商品を見出す手段 として有力となりうる。 この講義では、インターネット上での商取引ではどんな条件が必要と なるのか、各種リコメンデーションサービスの効果と限界について理解 を深めた後、コンテンツ固有のリコメンデーション手法について議論す る。
		都市情報論講義B	2		
		都市情報論演習	8		

主 要 科 目					
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授業内容
行 動 経 済 学 ・ 地 域 科 学	都市モデル解析	都市モデル解析講義A	2	教授 李 明 哲 (工学)	われわれが住んでいる社会はさまざまな問題を抱えています。これらの問題を数理的に解析し、その本質を探るとともに、効率化という視点から、実際に存在している諸問題の改善あるいは解決を図るのは、社会的・経済的視点から考えて重要な意味をもっています。本特講講義では、関連文献を通じて、このような研究内容への理解を深めることにします。また、同特講演習では、そのための数理的・計算機的準備を行い、それをもとに応用モデルの構築と解析を進めて、修士論文のテーマにしていきます。
		都市モデル解析講義B	2		
		都市モデル解析演習	8		
都市システム解析	都市システム解析	都市システム解析講義A	2	教授 博士(経済学) 梶 井 昌 邦	本講義の目的は、都市・地域データ解析のためのモデル開発を行う基礎的能力を習得することである。本年度は、最近注目を集めている、データマイニング(data mining)の理論や、そこで用いられるアルゴリズムを学習していくこととする。データマイニングとは、数ギガ、数テラといった巨大なデータベースから、そこに潜む有益な知識やパターンを発見する技術、もしくは、データ解析手法の総称であり、統計学、人工知能、機械学習等、幅広い背景をもつ学際的な学問分野である。講義では、(1)ニューラルネットワーク、(2)決定木分析、(3)連関規則、(4)ベイジアンネットワーク、(5)遺伝的アルゴリズム、といった話題に関する基礎的文献を輪読し、都市・地域データ適用のためのアルゴリズム開発や理論的拡張の可能性を考察する。
		都市システム解析講義B	2		
		都市システム解析演習	8		
地 域 経 営 論	地域経営論	地域経営論講義A	2	教授 木 下 敏 之	「地域経営」は、その地域の行政組織の運営にとどまらず、その地域の企業や農林漁業者、小規模な事業者などの経済活動の振興、それを支える道路や河川などの公共基盤の整備、教育を通じた人材育成、医療や福祉体制の整備などを含む幅広い概念です。 本講義・演習では、地域経営を構成する各要素を学び、実際の地域経営を考える際の思考方法を取得することを目的としています。 学生には、人口規模による地域運営の違いや、企業誘致型、農林水産業振興型、観光型などの地域経営の実例をケーススタディしてもらい、後半では、出身地など特定の自治体について、地域経営の計画及び実行のための方策を作成していただきます。
		地域経営論講義B	2		
		地域経営論演習	8		

2 その他の科目

主 要 科 目			特 修 科 目		
授 業 科 目		単位	授 業 科 目		単位
ミクロ経済学基礎講義A		2	景気変動論講義A		2
ミクロ経済学基礎講義B		2	景気変動論講義B		2
マクロ経済学基礎講義A		2	農業経済学講義A		2
マクロ経済学基礎講義B		2	農業経済学講義B		2
計量経済学基礎講義A		2	企業システム論講義A		2
計量経済学基礎講義B		2	企業システム論講義B		2
比較経済史基礎講義A		2	数理統計講義A		2
比較経済史基礎講義B		2	数理統計講義B		2
経済史Ⅲ(日本)講義A		2	経済学特設講義I		2
経済史Ⅲ(日本)講義B		2	経済学特設講義II		2
同演習		8	経済学特設講義III		2
応用マクロ経済学講義A		2	経済学特設講義IV		2
応用マクロ経済学講義B		2	経済学特設講義V		2
同演習		8	経済学特設講義VI		2
経済統計論講義A		2	経済学特設講義VII		2
経済統計論講義B		2	経済学特設講義VIII		2
同演習		8	経済学特設講義IX		2
			経済学特設講義X		2

3 履修方法

- 1 学生の標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計30単位以上を修得しなければならない。
- 2 主要科目のうちから一つの演習科目を選定し、これをその学生の専修科目とする。
- 3 専修科目担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けなければならない。
- 4 第1項の30単位は、次の区分によって修得しなければならない。
 - (1) 専修科目の演習8単位
 - (2) 主要科目の講義及び特修科目のうちから22単位以上。ただし、基礎分野のうちから4単位以上修得しなければならない。
- 5 指導教員が、当該学生の研究上特に必要と認めた場合は、前項の規定にかかわらず、他の研究科博士課程前期の履修しようとする授業科目について、その担当教員の承認を受け、8単位を限度に専修科目以外の修得単位に算入することができる。
- 6 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。
- 7 大学院学際リサーチプログラムの授業科目、単位、履修方法その他必要な事項は、別に定める。